



## 第33期事業報告書

2004年4月1日から2005年3月31日まで



ローランド株式会社



**ローランド企業スローガン**  
**創造の喜びを世界にひろめよう**  
**BIGGESTよりBESTになろう**  
**共感を呼ぶ企業にしよう**

ローランド独自の企業活動の根底にある精神は、上記3つのスローガンに集約されます。これこそ当社の企業としての意志であり、無限の可能性を秘めた音創りの明日に向かって、果てしなく広がる、大きな夢の源にほかなりません。これからのローランドにどうぞご期待ください。

c o n t e n t s

株主のみなさまへ	2
営業の概況（連結）	3
連結財務諸表（要旨）	5
単独財務諸表（要旨）	7
株式の状況	9
株主メモ	10
新製品のご紹介	11
トピックス	15
ブランドについて	17
会社の概況	18

**株主のみなさまへ**

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第33期（2004年4月1日～2005年3月31日）の事業概要をご報告申し上げます。

当期の業績につきましては、電子楽器事業では、ラインナップを一新した電子ドラム中心に国内外ともに堅調に推移し、コンピュータ周辺機器事業では、プリンターを中心に海外で大きく売上を伸ばしました結果、連結、単独決算ともに、前期と比較して増収、増益を達成することができました。

利益配当金につきましては、好調な業績とともに、株主のみなさまへの還元をより重視して、1株につき15円（中間配当金を含めて年間配当金は1株につき前期比6円50銭増配の25円）とさせていただきます。

このたび4月1日をもちまして、取締役会長に檀克義が、また、取締役社長に田中英一がそれぞれ就任いたしました。新体制のもと、引き続き製品力強化と業務改革によるコスト削減に努めることにより、さらなる収益の向上と企業価値の増大に取り組んでまいりますので、今後とも株主のみなさまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2005年6月



取締役会長  
檀 克義



取締役社長  
田中 英一

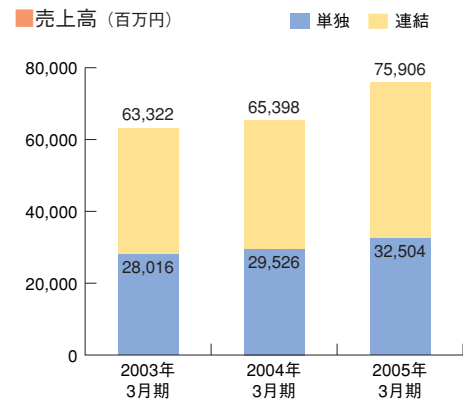
## 業績全体の概況

当連結会計年度の経済環境は、原油価格の高騰等、景気の先行きに対する不安要素はあったものの、国内景気は回復を持続しており、欧米経済においても概ね順調に推移したことから、全体的に緩やかな景気の回復基調にありました。

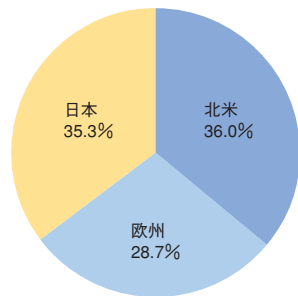
このような状況下において電子楽器事業では、ラインアップを一新した電子ドラムを中心に、国内外ともに堅調に推移しました。

一方、コンピュータ周辺機器事業では、低溶剤系インクを使用したインクジェットプリンターを中心に、欧州、米国をはじめ海外で大きく売上を伸ばしました。

以上の結果、全体では売上高は759億6百万円（前連結会計年度比16.1%増）、営業利益は67億42百万円（前連結会計年度比88.0%増）、経常利益は73億37百万円（前連結会計年度比100.7%増）、当期純利益は23億98百万円（前連結会計年度比114.0%増）となりました。



所在地別売上高構成比



		第31期 (2003年3月期)	第32期 (2004年3月期)	第33期 (2005年3月期)
連結	売上高 (百万円)	63,322	65,998	75,906
	経常利益 (百万円)	2,405	3,654	7,337
	当期純利益 (百万円)	△1,189	1,120	2,398
	1株当たり当期純利益 (円)	△47.63	42.53	92.43
単独	売上高 (百万円)	28,016	29,526	32,504
	経常利益 (百万円)	773	1,013	2,631
	当期純利益 (百万円)	△158	708	1,797
	1株当たり当期純利益 (円)	△6.21	27.26	70.03

## セグメント別営業の概況

### 電子楽器事業

「電子楽器」は、堅調なギター用エフェクターに加え、世界初の開閉型ハイハットを採用しパッドと音源部を一新した電子ドラム、高音質で小型設計のギター・アンプが国内外で好調に推移し、全体では前年同期を上回りました。

「家庭用電子楽器」は、自動伴奏機能付キーボードと電子オルガンが堅調に推移し、さらに、最新のモデリング音源を搭載した電子アコーディオンを発表、新たなマーケットの開拓にも努めました。一方で電子ピアノは、単価の高い多機能モデルの売上が減少しましたが、日本では機能を絞り込んだシンプルなモデル、海外ではコンパクトなデザインのモデルが堅調に推移し、全体では前年同期に比べほぼ横ばいとなりました。

「音響機器」は、カラオケ用音源ボードが好調に推移しましたが、デジタル・レコーダーの売上が減少し、全体では前年同期を下回りました。

「コンピュータ・ミュージック関連機器他」は、直感的な編集を可能とするビデオ編集専用機の新製品を発表し、話題を呼びました。また、パソコンによる音楽制作・デジタル録音に対応した機器が堅調なことに加えて、高音質で手軽にデジタル録音が行えるコンパクトなWAVE/MP3レコーダー等、話題性の高かった新製品が売上に貢献し、全体では前年同期を上回りました。

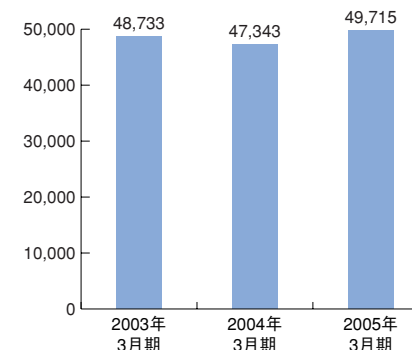
### コンピュータ周辺事業

需要拡大が期待できる「カラー&3D」の二分野を中心に積極的な事業展開を図りました。

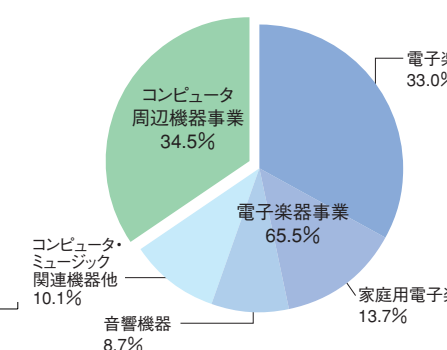
「カラー」は、屋外広告用途の需要増に応え、耐候性・発色性に優れた環境配慮型の低溶剤系インクを使用したインクジェットプリンターが大きく伸びました。当該機種は、高機能を装備し、コストパフォーマンスを追求した業務用標準機種と、より高画質、高生産性を提供するプロ用機種との2タイプを展開しています。当期は、業務用標準機種に大型サイズの新製品を投入し、ラインアップの充実を図るとともに、プロ用機種では現行品のモデルチェンジ、新たに開発した特定用途向機種の投入等、積極的な営業展開を行い、サイン市場における購買層の拡大と新たな用途提案に努めました。

「3D」は、製造業における情報関連技術の進展に伴い、ものづくり工程のデジタル化への意識が浸透してきています。セミナーや内覧会を通じた導入事例の紹介による啓蒙活動や、小型の3次元入出力装置による初期導入を広く展開することで、3D市場の成長に向けた環境整備を進めました。設計段階における試作の内製化による効率化などのソリューション提案を行い、販売拡大に努めるとともに、特定の機能・市場に向けた新機種の投入を行いました。

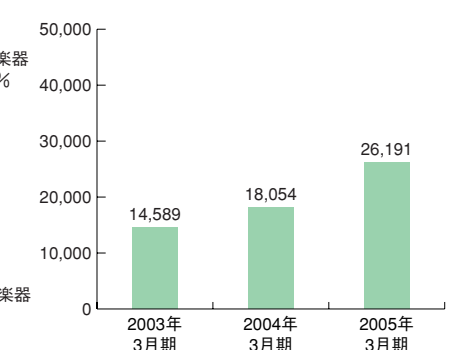
電子楽器事業売上高（百万円）



事業のセグメント別売上高構成比



コンピュータ周辺機器事業売上高（百万円）



# 連結財務諸表(要旨)

## 連結貸借対照表(要旨)

科 目	(単位:百万円)	
	当 期 2005年3月31日現在	前 期 2004年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>50,705</b>	<b>41,345</b>
現金及び預金	20,507	15,166
受取手形及び売掛金	9,980	9,808
たな卸資産	15,998	12,201
その他	4,724	4,584
貸倒引当金	△ 504	△415
<b>固定資産</b>	<b>24,411</b>	<b>25,554</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>15,850</b>	<b>15,411</b>
建物及び構築物	7,055	7,601
工具器具備品	1,682	1,614
土地	6,184	5,399
その他	927	796
<b>無形固定資産</b>	<b>1,538</b>	<b>1,261</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>7,022</b>	<b>8,881</b>
投資有価証券	3,151	3,371
その他	3,980	5,568
貸倒引当金	△ 109	△59
<b>資産合計</b>	<b>75,116</b>	<b>66,900</b>

科 目	(単位:百万円)	
	当 期 2005年3月31日現在	前 期 2004年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>11,753</b>	<b>9,422</b>
支払手形及び買掛金	4,805	3,876
短期借入金	945	1,409
その他	6,002	4,135
<b>固定負債</b>	<b>2,212</b>	<b>1,457</b>
<b>負債合計</b>	<b>13,965</b>	<b>10,879</b>
<b>少数株主持分</b>		
<b>少数株主持分</b>	<b>11,827</b>	<b>8,151</b>
<b>資本の部</b>		
<b>資本金</b>	<b>9,274</b>	<b>9,274</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>10,800</b>	<b>10,800</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>31,788</b>	<b>30,384</b>
土地再評価差額金	△ 1,582	△1,295
その他有価証券評価差額金	363	273
為替換算調整勘定	△ 643	△892
自己株式	△ 677	△676
<b>資本合計</b>	<b>49,322</b>	<b>47,868</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>75,116</b>	<b>66,900</b>

## 連結損益計算書(要旨)

科 目	(単位:百万円)	
	当 期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	前 期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>75,906</b>	<b>65,398</b>
売上原価	44,397	38,952
<b>売上総利益</b>	<b>31,509</b>	<b>26,446</b>
販売費及び一般管理費	24,766	22,859
<b>営業利益</b>	<b>6,742</b>	<b>3,586</b>
営業外収益	819	681
営業外費用	225	613
<b>経常利益</b>	<b>7,337</b>	<b>3,654</b>
特別利益	347	191
特別損失	562	265
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>7,122</b>	<b>3,580</b>
法人税、住民税及び事業税	2,693	1,556
法人税等調整額	297	△ 95
少数株主利益	1,734	999
<b>当期純利益</b>	<b>2,398</b>	<b>1,120</b>

## 連結の範囲

連 結 の 範 囲	当 期	前 期
<b>連結子会社</b>	<b>5社</b>	<b>6社</b>
国内	5社	6社
海外	15社	15社
<b>持分法適用関係会社</b>	<b>2社</b>	<b>3社</b>
海外	2社	3社

## 連結剰余金計算書(要旨)

科 目	(単位:百万円)	
	当 期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	前 期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
<b>(資本剰余金の部)</b>		
<b>資本剰余金期首残高</b>	<b>10,800</b>	<b>10,800</b>
<b>資本剰余金増加高</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
自己株式処分差益	0	0
<b>資本剰余金期末残高</b>	<b>10,800</b>	<b>10,800</b>
<b>(利益剰余金の部)</b>		
<b>利益剰余金期首残高</b>	<b>30,384</b>	<b>29,719</b>
<b>利益剰余金増加高</b>	<b>2,403</b>	<b>1,120</b>
連結子会社増加に伴う増加高	5	—
当期純利益	2,398	1,120
<b>利益剰余金減少高</b>	<b>999</b>	<b>454</b>
配当金	502	431
役員賞与	43	23
土地再評価差額金取崩額	454	—
<b>利益剰余金期末残高</b>	<b>31,788</b>	<b>30,384</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科 目	(単位:百万円)	
	当 期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	前 期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,469	2,128
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,540	△3,228
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,141	△2,498
現金及び現金同等物に係る換算差額	182	△79
現金及び現金同等物の増減額	5,253	△3,678
現金及び現金同等物の期首残高	15,166	18,845
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	87	—
現金及び現金同等物の期末残高	20,507	15,166

# 単独財務諸表(要旨)

## 単独貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
	2005年3月31日現在	2004年3月31日現在		2005年3月31日現在	2004年3月31日現在
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>18,523</b>	<b>17,036</b>	<b>流動負債</b>	<b>3,494</b>	<b>4,354</b>
現金及び預金	8,749	6,734	買掛金	1,608	1,892
受取手形及び売掛金	4,449	4,670	短期借入金	0	1,000
たな卸資産	2,791	2,795	その他	1,885	1,461
その他	2,551	2,856	<b>固定負債</b>	<b>504</b>	<b>275</b>
貸倒引当金	△ 18	△ 20	<b>負債合計</b>	<b>3,999</b>	<b>4,629</b>
<b>固定資産</b>	<b>26,874</b>	<b>28,370</b>	<b>資本の部</b>		
<b>有形固定資産</b>	<b>9,002</b>	<b>9,684</b>	<b>資本金</b>	<b>9,274</b>	<b>9,274</b>
建物	3,934	4,438	<b>資本剰余金</b>	<b>10,800</b>	<b>10,800</b>
工具器具備品	675	712	資本準備金	10,800	10,800
土地	3,971	4,136	その他資本剰余金	0	0
その他	421	397	<b>利益剰余金</b>	<b>23,230</b>	<b>22,406</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>333</b>	<b>370</b>	利益準備金	847	847
<b>投資その他の資産</b>	<b>17,539</b>	<b>18,315</b>	任意積立金	21,021	21,030
投資有価証券	14,498	13,628	当期末処分利益	1,360	528
長期貸付金	937	1,056	<b>土地再評価差額金</b>	<b>△ 1,582</b>	<b>△ 1,295</b>
その他	2,733	4,171	その他有価証券評価差額金	355	268
貸倒引当金	△ 631	△ 541	<b>自己株式</b>	<b>△ 677</b>	<b>△ 676</b>
<b>資産合計</b>	<b>45,398</b>	<b>45,407</b>	<b>資本合計</b>	<b>41,399</b>	<b>40,777</b>
			<b>負債及び資本合計</b>	<b>45,398</b>	<b>45,407</b>

## 単独損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	(2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>32,504</b>	<b>29,526</b>
売上原価	23,751	22,111
<b>売上総利益</b>	<b>8,752</b>	<b>7,414</b>
販売費及び一般管理費	7,168	6,888
<b>営業利益</b>	<b>1,584</b>	<b>526</b>
営業外収益	1,063	718
営業外費用	16	230
<b>経常利益</b>	<b>2,631</b>	<b>1,013</b>
特別利益	197	738
特別損失	538	908
<b>税引前当期純利益</b>	<b>2,290</b>	<b>844</b>
法人税、住民税及び事業税	346	21
法人税等調整額	147	115
<b>当期純利益</b>	<b>1,797</b>	<b>708</b>
前期繰越利益	268	36
中間配当額	251	215
土地再評価差額金取崩額	454	—
<b>当期末処分利益</b>	<b>1,360</b>	<b>528</b>

## 利益処分

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	(2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
<b>当期末処分利益</b>	<b>1,360</b>	<b>528</b>
任意積立金取崩額	8	8
特別償却準備金取崩額	8	8
計	<b>1,369</b>	<b>537</b>
これを次のとおり処分しました。		
<b>利益処分量</b>	<b>1,015</b>	<b>268</b>
<b>配当金</b>	<b>376</b>	<b>251</b>
	(1株につき15円)	(1株につき10円)
役員賞与金	39	17
任意積立金	600	—
別途積立金	600	—
<b>次期繰越利益</b>	<b>353</b>	<b>268</b>

(注) 2004年12月10日に、251百万円  
(1株につき10円)の中間配当を実施しました。

■ 株式の状況 (2005年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	50,000,000株
発行済株式総数	25,572,404株
自己株式数	460,696株
株主数	4,375名

■ 大株主 (2005年3月31日現在)

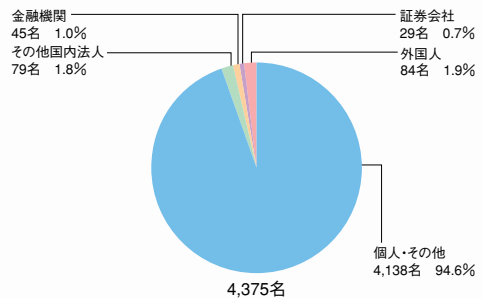
株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
梯 郁太郎	3,047	12.1
パイオニア興産株式会社	1,800	7.2
財団法人ローランド芸術文化振興財団	1,585	6.3
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブ アカウ アメリカン クライアント (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	1,564	6.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,217	4.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	917	3.7
ローランド社員持株会	712	2.8
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ユーエス タックス エグゼクティブ ベンション ファンズ (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	662	2.6
株式会社りそな銀行	561	2.2
パイオニア株式会社	519	2.1

■ 単元未満株式買増制度のご案内

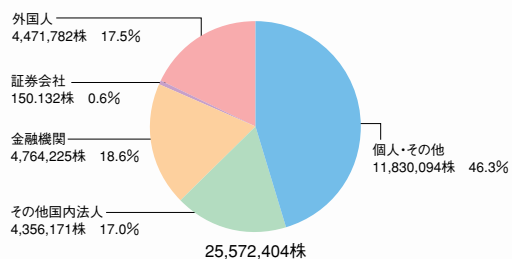
当社は単元未満株式の買増制度を採用しております。この制度は、株主様が1単元（100株）に満たない株式を所有されている場合、1単元に不足する株式を売り渡すよう発行会社に請求し、1単元に買増することができる制度です。例えば、当社株式150株を所有されている場合、当社に50株の買増しをご請求いただき、所有株式を200株にすることができます。具体的なお請求手続きや代金の支払方法などにつきましては、当社名義書換代理人（株式会社だいこう証券ビジネス）にお問い合わせください。

なお、単元未満株式の買増請求につきましても、引き続きお手続きいただけますので、買取りをご希望される場合は、当社名義書換代理人までお問い合わせください。

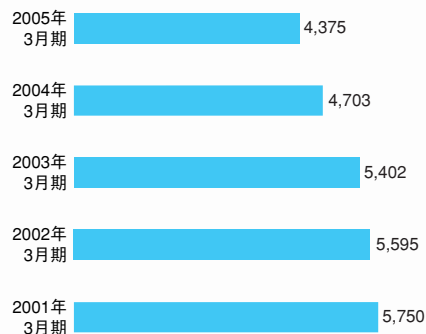
■ 所有者別株主分布状況 (2005年3月31日現在)



■ 所有者別株式分布状況 (2005年3月31日現在)



■ 株主数の推移



■ 株主メモ

決算期 3月31日  
 定時株主総会 6月  
 1単元の株式の数 100株  
 基準日 定時株主総会 3月31日  
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。  
 配当金受領 利益配当金 3月31日  
 株主確定日 中間配当金 9月30日  
 上場証券取引所 東京・大阪証券取引所市場第一部  
 名義書換代理人 大阪市中央区北浜二丁目4番6号  
 株式会社だいこう証券ビジネス  
 〒541-8583  
 同事務取扱場所 大阪市中央区北浜二丁目4番6号  
 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部  
 (各種お問い合わせ) 電話 0120-255-100  
 ※株式関係のお手続用紙のご請求は次の電話番号およびインターネットで24時間承っております。  
 電話 0120-351-465  
 http://www.daiko-sb.co.jp  
 同 取 次 所 株式会社だいこう証券ビジネス 各支社

■ 配当金口座振込のおすすめ

配当金のお受取りは、口座振込が便利です。口座振込の場合は、支払開始日に自動的にご指定口座へ入金させていただきますので、受取り忘れといったこともなくなり安心です。口座振込による配当金のお受取りをご希望の場合は、当社名義書換代理人（株式会社だいこう証券ビジネス）に「配当金振込指定書」をご請求ください。

■ 決算公告のお知らせ

日本経済新聞に掲載する決算公告に代えて貸借対照表及び損益計算書を当社ホームページ (http://www.roland.co.jp/ir/index.html) で開示しております。

■ 株主様アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまの声をとお聞かせいただくため、アンケートを実施させていただくことといたしました。お手数ではございますが、以下の方法によるアンケートへのご協力をお願いいたします。

-----  
 下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<https://www.e-kabunushi.com>  
 アクセスコード 7944

-----  
 なお、QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、下のQRコードからもアクセスしていただけます。



アンケート実施期間は、本事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間（8月末まで）となりますのでお早めのご回答をお願いいたします。

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

アンケートのお問い合わせ：  
 03-5777-3900



高品位ドラム音源 TD-12を核にしたニュー・ラインアップ。  
**TD-12KS-BK/WT**  
V-Stage Series

リアルな演奏感と豊かな表現力、ハイ・クオリティなサウンドで好評のV-Drumsシリーズに新たなモデルが加わりました。ニュー・モデルのV-StageシリーズTD-12KS-BK、TD-12KS-WTは、TD-20と同等のサウンド・クオリティと優れた演奏感を備えながら、コスト・パフォーマンスの高い中堅機種。ライブ、レコーディングから自宅トレーニング用としてまで幅広く活用できるモデルです。

熱狂させる楽器、Vアコーディオン誕生。  
**FR-7/FR-5 V-Accordion**

Vアコーディオンは、ローランドの最先端のデジタル・モデリング技術により、音源から新開発。アコーディオンの豊かな魅力とデジタルならではの進化を身につけて、飛躍的な表現力を持ったアコーディオンです。バッテリー駆動で最長8時間という長時間演奏も可能です。コンパクトな一台でメロディから伴奏まで巧みに演奏でき、ベローズ（蛇腹）でアーティキュレーション表現も自在…このアコーディオンならではの個性豊かな表現力を受け継ぎ、さらに新たな世界を生み出すために。発音機構には、ローランド独自のPBM（Physical Behavior Modeling）音源を採用。単に音色を録音したサンプリング音源ではなく、発音原理からアコースティック・アコーディオンの各部の振る舞いを精密にモデリングで再現します。



「時間」までもシンセサイズ・パラメーターとして内蔵。  
斬新な音創りが展開できる  
新次元のシンセサイザー。  
**V-SynthXT**



**V-Synth Version 2.0**

ローランド独自のバリフリーズ・テクノロジーでシンセ・サウンドに変革をもたらしたV-Synthが、ソフトウェアのアップデートによりバージョン2.0に進化。V-Synthでなければ表現できない斬新なサウンドや、自在に操れる数々の新機能を備えています。また、新規波形の搭載をはじめ、音創りの可能性もさらに拡大。オーディオを自在に扱いながら、しなやかなサウンドの創造を可能にする「エラスティック・オーディオ・シンセシス」の世界を提案します。



V-Synth/VariOSを斬新な効果をつくる“ヒューマン・ボイス・プロセッサー”へ変身させる新V-Card。

**VC-2 V-Card Vocal Designer**

VC-2 Vocal Designerは、V-Synth/VariOSをボイス専用プロセッサーへと変身させるV-Cardの新製品です。ポコーダー・サウンドはもちろん、従来のボーカル・プロセッサーでは実現不可能な斬新なボーカル/クワイアー・サウンドをつくり出すことができます。



デュアルCOSMアンプ・セクション  
搭載の最強フロア・タイプGT。

**GT-8 Guitar Effects Processor**

COSMによる圧倒的なモデリング・クオリティの高さで、プロのギタリストたちから絶大な信頼を獲得しているギター・エフェクツ・プロセッサーGTシリーズに新モデルGT-8が登場。デュアルCOSMアンプ・セクション&ソロスイッチなどの革新的な構成や、さらに種類が増えたエフェクト群など、プロ仕様、最強のフロア・タイプGTです。





音質、鍵盤、再生系、フォルムのすべてに最高級を実現した自動演奏機能付きデジタル・グランドピアノ。

### RG-7 Roland Piano Digital

RG-7は、グランド・タイプのエlegantなフォルムのキャビネットに、ローランドが培ってきたピアノ設計技術を結集。ピアニストの求めるすべての演奏表現に応える、最高品質のデジタル・ピアノです。ステージ用としてはもちろんのこと、自動演奏機能、自動鍵盤も備えているので、ホテルやレストランでもご活用いただけます。



デジスコアで好評のHPI-7の再生系をグレードアップ。VGA出力も可能にしたシリーズ ニュー・モデル。

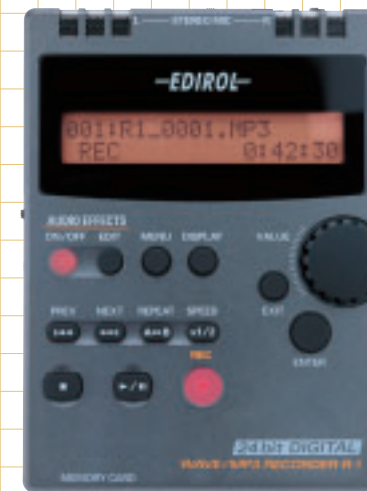
### HPI-7LE Roland Piano Digital

高品位なピアノ・サウンドと譜面立てに装備した大型カラー液晶表示画面で好評のHPI-7をベースに、再生系をグレードアップ。フルコンサート・グランドピアノの特性を徹底的に追求して生まれた高品位ステレオ・サンプリング・ピアノ音源を内蔵。そのサウンドを、さらに美しく臨場感あふれる音として再生するために、ローランド独自のスピーカー・システム「グランドピアノ・プレゼンス」を採用しています。高音用のスピーカーをキャビネット上面に、低音用スピーカーを本体スタンド内のスピーカー・ボックスに配置することで、グランドピアノの響板の上下から広がるような、立体感のあるサウンドを実現しました。グランドピアノの演奏者自身が感じとるリアルな音の空間を、さらに迫力のあるサウンドで体感することができます。

手軽に高音質デジタル録音が行えるコンパクトなWAVE/MP3レコーダー。

### R-1 WAVE/MP3 Recorder

R-1は、CDを超える高音質で、手軽にデジタル録音が行えるコンパクトなWAVE/MP3レコーダーです。オーディオ・インターフェースで培われた技術やCOSMなど、エディロール/ローランドの最新技術を駆使し、高音質録音を実現。バンド演奏のレコーディングからフィールド・レコーディングまで、多彩に活躍します。



映像を楽器のように演奏できるビジュアル・シンセサイザー。

### CG-8 Visual Synthesizer



CG-8は、CGや3D動画をリアルタイムに映像出力することができるビジュアル・シンセサイザーです。本体内蔵のCG映像に加え、デジタルカメラなどで使われている2次元の画像ファイル(JPEGなど)を3D動画化することが可能です。また、CG制作の際に必要な高度な知識はほとんど不要。楽器を演奏するような感覚で映像のリアルタイムパフォーマンスを楽しむことができます。また、電子楽器間の共通規格MIDI(ミディ)端子を装備。音と映像の連携を実現します。CG-8は、映像制作やステージ演出にはもちろん、VJ(ビジュアル・ジョッキー)やAudiovisual(音と映像が融合した作品やパフォーマンス)等の新ジャンルに最適な映像クリエイティブツールです。

(注) 記載されている社名、製品名などの固有名詞は、各社の登録商標または商標です。



### 世界の数々の栄えある賞を受賞

今年もローランド・グループの製品が世界の栄えある賞を数々受賞いたしました。これからもお客様に喜んでいただける、そして、音楽を楽しんでいただける製品の開発、製造、販売に努めてまいります。

・世界各国58の音楽／楽器専門誌の投票によって2004-2005年のベスト・プロダクトが選ばれるm.i.p.a.「Musikmesse International Press Award 2005」の3部門を受賞。



MIPA category "E-Drums"  
**TD-12**

MIPA category "Stage Piano"  
**RD-700**



MIPA category "Dance/Groove-Gear"  
**MC-909**

・世界中の雑誌社が主催する数々のAWARDを受賞。

Soundcheck誌"Best Keyboard Instrument"  
**Fantom-X**



Tastewelt誌 "Most innovative instrument"  
**V-Accordion**



KEYS誌 "Best Groove hardware"  
**MV-800**



・株式会社BCNによる「BCN AWARD」のMIDI部門で、ローランド／エディロール製品が2001年から5年連続で売上台数第一位メーカーに贈られる最優秀賞を受賞。



全店販売/パソコン販売/1000のPOS実装社

### ローランドRMS音楽教室をはじめとする企業広告の積極的な展開

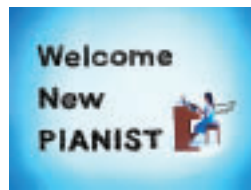
今年も積極的に新聞、TVにおいて企業広告を展開いたしました。これからも、より多くの方々へ企業広告を通じて、ローランド・グループに対する理解を深めていただけるよう努めてまいります。



新聞広告



TVCM



毎週土曜日午前8:00~9:25  
日本テレビ系列24局ネット  
「ウェークアップ!」にてCM放映中

### ローランド・プラネット店、続々オープン

Planetとは、ユーザーとローランドをダイレクトにつなぐ新提案InShopです。デジタル楽器の魅力を実感していただけるよう、展示はローランドのデジタル商品をベストセクション。展示製品すべてが試奏可能で、ご希望の商品を最高の環境でじっくりお選びいただけます。さらに、店頭では専門のPlanetスタッフが対応。購入相談からサポートまで受け付けております。提携得意先の店内にて展開しており、2004年秋の石橋楽器店渋谷店を皮切りに全国5ヶ所に出店済み（2005年4月現在）。今後も続々オープン予定です。



### 多様化するマーケットに迅速に対応するための新生産方式

製品の組み立てを一人の従業員が行う『セル生産方式』。多様化するニーズや製品バリエーションにも速やかに対応できるこの方式をベースに、さらに組み立て品質の向上を実現したのが、ローランド独自の生産方式『R-HPS（\*1）』です。また、ライン生産に『R-HPS』を導入し、自動組み立て、自動検査、搬送を組み合わせたデジタル情報を活用した生産方式『R-DHL（\*2）』も採用し、生産の効率化と品質の向上を実現しております。



\*1) R-HPS (ローランド・ハイエンド・プロダクション・システム)  
\*2) R-DHL (ローランド・デジタル・ハイブリッドライン)

(注) 記載されている社名、製品名などの固有名詞は、各社の登録商標または商標です。

### ローランド ディー・ジー、新工場建設

ローランド ディー・ジー、株式会社は、近時の売上高の増加に加え製品の大型化にともない生産力の増強が喫緊の課題となったため、新工場を建設することにいたしました。新工場の建設予定地はローランド ディー・ジー、本工場の近く、同じ都田テクノポリス内にあります。土地面積は約27,709m<sup>2</sup>で本工場の約1.4倍になります。新工場建設では、年商400億円に対応した生産体制の構築、人や環境に優しいデジタル・ファクトリー、免震構造を取り入れた建物設計など最先端のものづくり拠点を目指してまいります。



### ローランド アジア・パシフィック設立

『ローランド アジア・パシフィック』（英語名：Roland Asia Pacific Sdn.Bhd.）を2004年12月に設立いたしました。マレーシア、シンガポール2カ国での販売強化を図ってまいります。



自由な発想とスピリッツから、  
感動を生む「音」を創造する電子楽器の総合ブランド

# Roland

高品位な音を生み出す独自のテクノロジーから、画期的な新製品を次々と打ち出し、世界の音楽シーンをリードする『ローランド』。世界のプロ・ミュージシャンから高い信頼と評価を得ています。ステージやスタジオで活躍しているシンセサイザーや電子ドラム、アンプをはじめ、ご家庭でも楽しめる電子ピアノや電子オルガン、業務用のアンプやスピーカーなど音響機器、そして携帯電話着信音サービスなど様々な商品を通じて「感動」をお届けしています。



エフェクター世界No.1のシェアを誇る、ギター関連機器ブランド。

# BOSS

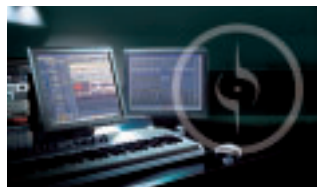
エフェクター、デジタル・レコーダー、リズム・マシンなどのギター関連機器から、ギタリストの創造力を刺激する「音」をお届けしている『ボス』。世界中の有名ギター・プレイヤーや楽器ファンから信頼のブランドとして熱い支持を受け、コンパクト・エフェクター世界No.1のシェアを誇っています。



自由に創りだす喜びをお届けする、音と映像の編集機器ブランド。

# EDIROL

コンピュータ・ミュージック、ビデオ編集機器を中心に展開する『エディロール』。高品位なサウンドの音楽制作や、音と映像の編集を、多彩な製品ラインアップでサポートしています。



伝統の技と先進技術が融合した、クラシック・オルガンのブランド。



最新のデジタル技術によって、豊かなパイプオルガン・サウンド、ハーモニー、大聖堂さながらの響きを再現した、本格クラシック・オルガンのブランド『ロジャース』。全国のホテルや世界各国の教会、音楽ホールなどで採用されています。

次代のソリューションを提案する、コンピュータ周辺機器ブランド。

# Roland

デジタル技術の力で「イメージをカタチに」するブランド『ローランドディー・ジー』。業務用大型カラープリンターや三次元入出力装置などから、さまざまなソリューション提案を行っています。



## ■ 会社の概要 (2005年3月31日現在)

商号	ローランド株式会社 (Roland Corporation)
設立	1972年4月18日
資本金	9,274百万円
主な事業内容	電子楽器、電子機器およびそのソフトウェアの製造販売並びに輸出入
従業員数	707名

## ■ 役員状況 (2005年6月24日現在)

取締役会長 (代表取締役)	檀 克 義
取締役社長 (代表取締役)	田 中 英 一
専務取締役	西 澤 一 朗
取締役	三 木 純 一
取締役	近 藤 公 孝
取締役	柳 瀬 和 也
取締役	小 川 隆
取締役	富 岡 昌 弘
常勤監査役	庄 司 東 生
常勤監査役	河 合 保
監査役	川 島 実
監査役	前 川 三喜男
特別顧問	梯 郁 太 郎
会計監査人	監査法人トーマツ

(注) 監査役 川島 実氏および前川 三喜男氏は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定められる社外監査役です。

## ■ 事業所 (2005年6月24日現在)

本 社 工 場	静岡県浜松市細江町中川2036-1 (7月1日より)
工 場	都田工場、伊左地工場、松本工場
研 究 所	浜松研究所
試 験 セ ン タ ー	都田試験センター
流 通 セ ン タ ー	浜松流通センター
国内オフィス	札幌、東京、名古屋、大阪、福岡
海外オフィス	ロッテルダム
音 楽 教 室	ローランドRMS音楽教室直営センター 北海道センター、首都圏センター渋谷、東海センター佐鳴台、東海センター、関西センター京都、関西センター梅田、広島センター、福岡センター

## ■ グループ各社 (国内) (2005年6月24日現在)

製造	ボス株式会社
製造販売	ローランド イーディー株式会社
製造販売	ローランド エンジニアリング株式会社
製造販売	ローランド ディー・ジー 株式会社

## ■ グループ各社 (海外) (2005年6月24日現在)

販売	Roland Corporation U.S. Edirol Corporation North America Roland Canada Music Ltd. Roland Brasil Importação, Exportação, Comércio, Representação e Serviços Ltda. Roland Corporation Australia Pty.Ltd. Roland (U.K.) Ltd. Edirol Europe Ltd. Roland Elektronische Musikinstrumente HmbH. Roland Central Europe n.v. Electronic Musical Instruments Roland Scandinavia a-s Roland Iberia, S.L. Roland (Switzerland) AG Roland Italy S.p.A. Roland East Europe Ltd. Roland Taiwan Enterprise Co., Ltd. Roland Asia Pacific Sdn. Bhd.
----	---

製造	Rodgers Instruments LLC Roland Audio Development Corp. Roland Taiwan Electronic Music Corp. Roland Electronics (Suzhou) Co.,Ltd. Roland E.Music (Suzhou) Co., Ltd. Roland Europe S.p.A.
----	--

物流	Roland (Shanghai) Logistics Co., Ltd.
----	---------------------------------------



<http://www.roland.co.jp/>

